



Dr 高橋のアレルギー相談室

ぜんそくにひいては(その1) どんな病気でしょ?

長引くセキ、特に夜間や運動時にせき込み「ヒューヒュー、ゼイゼイ」と鳴る場合、気管支ぜんそくがまず疑われます。ぜんそくの発作は、空気の通り道である「気道」が急に狭くなって呼吸困難をきたすもので、重度の場合酸素欠乏となり死に至ることもあります。ぜんそくという「この発作のときだけ治療すればよい」と思われがちですが、決してそうではありません。研究が進み、ぜんそくでは発作の有無にかかわらず常に気道に炎症があることが分かり、この「慢性的な気道の炎症」を予防的に抑えることが重視されるようになってきました。

気道の炎症とは?

気道に好酸球やリンパ球などの炎症細胞が集まってヒスタミン、ロイコトリエン、サイトカインといった炎症を引き起こす物質を出すと、気道の粘膜が傷害を受けて荒れた状態になり、少しの刺激でも過敏に反応するようになります。これがぜんそくの気道炎症で、発症早期・軽症のぜんそく患者さんからすでに見られ、無症期でも常に起こっているのです。その発生には、ダニ、カビ、動物のフケ、花粉などのアレルギー

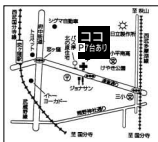
や、たばこの煙、排気ガスなどの環境要因と遺伝要因が関わっています。

気道が狭くなる

過敏な気道に刺激が加わると、気道の筋肉が収縮し粘膜が腫れ分泌物が増えて気道が狭くなり、呼吸しにくくなります。これがぜんそく発作です。また、気道炎症が続くと、気道の壁が永続的にかたく厚くなってしまいう「リモデリング」という現象が起こります。すると気道がさらに過敏になり、発作が容易に起こるとともに治療への反応が悪くなり、ぜんそくが重症難治化してゆきます。ですから、発症早期・軽症のうちから気道炎症を鎮めてしまう治療が重要です。

医学博士 高橋 寿保

高橋内科クリニック (内科・呼吸器科・アレルギー科)
東京都国分寺市東恋ヶ窪6-2-6 チサカ第1ビル1階
TEL: 042-322-7676 FAX: 042-322-7686



診療時間 AM 9:00 ~ 12:30 PM 3:00 ~ 6:00
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜祝日
小平市基本健康診査も受けられます。